さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

1級建築士 受験可能に

甲府工高専攻科が新課程

甲府工高専攻科は本年度、1級建築士の受験資格が取得可能となる新課程を導入した。建築科（夜間制）が対象で、4月に入学した1年生から適用される。試験の実施機関である公益財団法人「建築技術教育普及センター」（東京）によると、公立高校の専攻科では全国で2例目。山梨県内では、これまで1級の受験資格が取得できる教育機関はなく、地元の貴重な人材育成の場として期待が高まっている。

1970（昭和45）年に設置された同科ではこれまで、受験資格を取得できたのは2級建築士までだった。主に戸建て住宅を扱う2級と異なり、1級では公共施設や商業施設など大規模な建築物も取り扱える。より幅広い志望者のニーズに応え、地元の建築士不足解消に寄与しようと、授業を4科目新設するなどカリキュラムを変更。国交省に申請し、単位要件を満たすとして認可が下りた。

50分の1の縮尺で模型製作に取り組む1年生ら＝甲府工高

新課程では、授業時間は変わらず、これまでと同じ2年間で40単位を修めることで、卒業後すぐに1級の試験を受けられるようになる。合格した場合、4年の実務経験を経て、免許登録される仕組みだ。

同科には現在1年生13人、2年生12人が通っており、ともに定員の30人には達していない。全国の1級受験資格が得られる教育機関はほとんどが大学や専門学校で、授業料など年間100万円ほどかかるところが少なくない。一方、同科は授業料が月9900円。その他の経費も含めかかる費用は2年間で40万円ほどといい、同校は同科の受験者増も狙う。

同科主任の菅沼雄介教諭(49)は「1級建築士を輩出できる学校として、県内の人材不足解消に貢献したい。県外からの人材流入にもつながると思う」。働きながら学べる夜間制の強みと授業料の安さを売りに、県内だけでなく首都圏にもアピールを強めていくつもりと言う。この4月から甲府市内の工務店で働きながら同科に通う中村優希さん(23)は「現場で仕事をしながら、知識向上も図れるのがありがたい。受験の時点では1級の受験資格を得られることは知らなかったが、機会ができたのでそれを目標にしっかり学びたい」と話す。

県建築士会によると、業界全体として人材不足が課題。会員数は1998年度の1545人をピークに年々減少し、2023年度は1011人に。高相正樹副会長(50)は「これまでは1級の資格を取ろうとすると県外に出る人がほとんどだったため、地元の大事な受け皿になる。県内事業者全体が活気づくのではないか」と期待する。

〈赤池悠〉

（2023 年 5 月 1 日付 山梨日日新聞 17 面）

問1 山梨県で、1級建築士が受験可能となる公立校の専門課程が、4月から新設されました。
対象となる学校と科を答えてください。

問2 建築士の1級と2級の違いを答えてください。

問3 県内に、このような専門的な勉強ができる場ができることは、どのような利点がありますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.